

広報誌

ペケレベツとは

アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味しており、清水町の由来となっています。



ペケレベツ



院長挨拶 トピックス

- 永年勤続
- 赤十字フェスティバル開催！
- パークゴルフ大会
- 院内コーナー（心不全など）
- BBQ 開催

人事消息
編集後記



「日本の医療が行きつく先」

病院長
藤城 貴教

“経済一流、政治は二流”とはかつての日本を揶揄？ 象徴？ する表現であった。

今はどうであろうか？ 少なくとも経済は GDP で世界の第 4 位に転落し、この 40 年間ほとんど国民所得は増えていない。参考までに 1 世帯当たりの平均所得金額をみてみよう。私が大学に入学した 1986 年：505.6 万円に対し 2022 年：524.2 万円である（出典：政府統計の総合窓口 e-Stat）。一方で物価は上昇を続け、日本経済ですらもはや一流ではない。

日本人がナマケモノになったかと言うと、そういうわけでもなさそうだ。高齢化で医療と介護の労働需要が増え、いわゆる成長産業で働く人が足りず国際競争力を失っているのが主因のようである。更には政府の予想よりも 10 年前倒しの少子化が拍車をかける。外国人労働者の登用は世界的に見てもごく自然な流れであり、いまや日本人だけでこの国を維持することなど到底できない。都市部ではコンビニやファストフードの店員さんはほとんどがアジアの隣人である。先日、札幌で会合に使った寿司屋の仲居さんはやはり東南アジアの若い女性であったが身なりや言葉使いそして身のこなしも今の日本人よりずっと端麗であった。日本文化が外国人に侵食されているのかということもそういうこともない。遥か昔より中華圏や朝鮮半島の人々との文化交流はあるし、少数民族の方々も特に北海道には多くもともと多様な文化の中に我々は生きている。そして食文化、最近では芸能分野においても急速にボーダーレス化が進んでいる。

先ごろ、法事で札幌の親類に会う機会があった。高齢者が多くみな“病氣自慢”を繰り広げているのだが、口々に“このごろは病院にかかりにくくなった”と言う。例えば、90 歳の叔母は糖尿病と心臓病で通院中の大学病院に意識障害のため救急車で運ばれたが、脳神経外科の受診歴がないから車内で断られたよう。その後いくつかの病院に断られたのち小さな民間病院に搬送された。急性期が過ぎた今も麻痺により自宅退院がままならないため別の転院先を探しているがなかなか見つからないようだ。ちなみに嚥下障害のため食事が摂れず鼻から通した管から栄養剤を注入しているらしく主治医からは胃瘻は危ないと言われているそう！？ また、80 代半ばの叔父は心不全で通院中に再生不良性貧血を発症し毎週の輸血が必要になったが、かかりつけである札幌近郊都市の市立病院には血液内科がないから輸血を断られ、札幌市内の専門病院に週二回輸血に通っている。なんか違うのか！？ と思い、軽いめまいを感じた。

ちかごろ参議院選挙がある。候補者は口々に減税だ！ いや給付金だ！ それは単なるバラマキだ！ 国民の手取りを増やすんだ！ 外国人の規制を！ というスローガンばかりが目立つが、いったいどの党のどの候補の公約なのか見当もつかないし、日本の将来にどのように反映するかというゴールも見えない。医療介護に関する目立った公約はほとんどの候補者が具体的な策を掲げていない。マクロ経済学者の認識として面白い記述があった。まず、国民は政治家に騙されるものだという事、次に選挙前には政府はバラマキ政治を行って票を集め、選挙後は緊縮財政に戻るといふものである。なるほどその通りである。

政治も経済も三流になった今の日本、世界に誇る日本の医療が三流にならぬよう心掛けたいものである。

永年勤続

看護師として 30 年。地域とともに歩んできた日々

師長 伊藤 由香

気がつけば、看護師として 30 年。

「よくここまで続けてこられたなあ」と、自分でもちょっと驚いています。

この地域で、たくさんの患者さんやご家族と向き合いながら、一日一日を積み重ねてきました。

看護の道を歩み始めた頃は、まだ「看護婦」と呼ばれていた時代。

その後「看護師」へと呼び名が変わり、医療の現場も少しずつ姿を変えてきました。

それでも、地域の方々のそばで、寄り添いながら看護を続けたいという気持ちは、ずっと私の中にあります。

この 30 年間には、阪神・淡路大震災や東日本大震災、新型コロナウイルスの流行など、社会全体が大きく揺れ動く出来事がいくつもありました。

そして、医療の進歩も目まぐるしく、カルテは紙から電子へと移り変わり、検査や治療の技術も格段に進歩しました。

不安や混乱の中で、医療機関としての役割を果たすために、自分にできることを模索しながら、日々の業務に向き合ってきました。

一方で、地域医療に求められるものも多様化し、「治す医療」だけでなく、「支える医療」や「寄り添う看護」の重要性がより強く求められるようになったと感じています。

医療が進歩して便利になった一方で、難しさや戸惑いを感じる場面も増えました。

でも、どんなに時代が変わっても、看護はやはり「人と人のつながり」の中にあるのだと思います。

これからも、そのつながりを大切にしながら、自分にできる看護を続けていきたいと思っています。

これまで支えてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

勤続 30 年を迎えて

総務係長 辻内 亜希子

このたび、勤続 30 年という節目を迎えるにあたり、改めて時の流れの速さを実感しています。振り返れば、喜びや苦勞、さまざまな出来事が私の糧となり、いずれもかけがえのない経験として心に深く刻まれています。

入職初日を思い返すと、現在では定着している辞令交付式や新入職員オリエンテーションもなく、事務室の一角でレセプトコンピューターに向かい、終日患者登録の練習に励んでいたことが昨日のこのように思い出されます。

当時は外来の予約制もなく、早朝から多くの患者さんが受付前に並ばれていたため、受付当番の日には午前 6 時半に出勤することも珍しくありませんでした。

内科外来に配属されてからは、昼休憩を取る間もないほどの忙しさに追われる日もありましたが、看護師や助手の皆さんと協力しながら業務を遂行する中で、やりがいを感じる瞬間も多く、患者さんからいただく「ありがとう」の一言が、何よりの励みとなっていました。

現在は、直接患者さんと接する機会は減りましたが、長年通院されている方から「まだいたんだね（笑）顔を見ると安心するよ」とお声がけいただくこともあり、心温まる瞬間です。

この 30 年で病院は大きく変化し、新しい技術や価値観が導入され、私たちの働き方も大きく進化を遂げました。今後も、変化に柔軟に対応できるよう努め、感謝の気持ちと謙虚さを忘れず、日々精進していきたいと思っています。

最後に、これまで私を厳しくも温かく見守ってくださった上司の方々、共に努力を重ねてきた多くの同僚の支えがあってこそ、今の私があると心より感じています。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。



2025 赤十字フェスティバル 公開講座

2025年5月21日に赤十字フェスティバルの公開講座が行われました。

2025年問題から「未来」を考える～地域で暮らし続けるために～と題して、当院の様々な職種からの発表や、清水町役場保健福祉課の鹿内様にも基調講演として「清水町の地域包括ケアシステム構築に向けて」講演をして頂きました。会場には約80名の町民の方々が来場されており、ご自身やご家族の清水町での暮らしに興味関心のある方が多いのだなと実感しました。

私も発表者として参加させて頂きましたが、発表資料を作りながらどのようにしたら聞きやすいのか、どんな内容が聞きたいのかなど考えながら、人に伝える事の難しさも改めて感じました。また、大勢のひと前で話す機会もあまりないことに加え、普段着る事の少ないスーツを身にまとう事でより緊張感が高まりました。発表自体は上手かったのかどうかは自分ではあまりわかりませんが、他の方々の発表も聞きながら有意義な時間を過ごせました。



赤十字フェスティバルのパークゴルフ大会に参加させていただきました。今年のパークゴルフは曇りでの開催となりましたが、多くの地域の方々にお集まりいただきました。私自身、パークゴルフは高校生ぶりの挑戦で、経験の少ない私に地域の方々には失敗しても優しく声をかけてくれ、成功した際にはとても褒めてくれました。入職して初めてのイベントでしたが、楽しい思い出を作ることができてよかったです。時間が経つとチームの方々を下の名前呼び、まるで孫かのように可愛がってくれました。最終ホールが近づくにつれ、もう終わってしまうのだと寂しい気持ちになりましたが、最後まで全力で頑張りました。

温かい方々に囲まれながら行ったパークゴルフですが、結果はブービー賞と少々残念な結果となりました。しかし、地域の皆さんと関わる事ができる貴重な時間を怪我や事故なく、楽しく終えることができ、心から嬉しく思います。パークゴルフに参加していただいた地域の皆様、本当にありがとうございました。



2025 年度赤十字フェスティバルに心不全療養指導士として参加して

今年度初めて心不全療養指導士コーナーを設置し来場者に心不全についての説明をしご自身の現状を大まかな塩分摂取量から説明し理解を深めて頂きました。今回は in body 栄養相談 血圧測定 心不全療養指導士の各コーナーを集約したため途中から in body の説明も行いました。心不全コーナーに63名の方が説明を聞きに来ていただき大変盛況だったのですがその中には新清水町長に選出された辻康裕町長も来院して頂き心不全の説明をさせて頂きました。やはり多忙のため食生活について改善したいと仰っておられましたので心不全の経過の説明の後にタンパク質、糖質、脂質のバランスを取りながら食物繊維を意識して取り入れる方法として町内にあるいくもと米穀店で玄米を購入して日々の食事に加える方法もありますよ、と話したところ「明日から玄米食にします！僕は100か0かの人間なんで！」と仰っていました。是非当院での健康診断お待ちしております。

などなど盛況のうちにフェスティバルを終えることが出来ました。来年度は更に趣向を凝らした内容でフェスティバルを盛り上げて行きたいと思っていますのでみなさまのご来場をお待ちしております。職員の皆様はご協力のほどよろしくお願い致します。



親睦会 BBQ パーティー

6月17日に清水公園バーベキューハウスにて、職員親睦会 BBQ パーティーが行われました。当院職員のほか、出張や研修で来院されている先生方、看護師の方が参加し、部署を問わず交流を深められる時間となりました。お肉は辻屋精肉店さんのお肉をいただきました。肉厚でやわらかく、とってもジューシーで普段食べるお肉とは格別に美味しかったです。絶品のお肉を満喫したあとは、焼きマッシュマロや出来立てポップコーンを楽しみました。皆さんはお家でポップコーンを作ったことはありますか？なんとザルを使うことで美味しいポップコーンを作ることができるそうです！フライパンに油を熱したところにコーンを入れ、ここでフライパンより少し小さめのザルと蓋代わりのアルミホイルを被せ、フライパンを軽く揺すりポップコーンがはじけたら完成です。ザルを使うことで蒸気を逃し、ポップコーンが湿気るのを防げるそうです！焼肉のあとの歓談の時間に軽めのポップコーンが丁度よく人気のようなのでした。皆さんもお家で出来立てポップコーンを楽しんでみてはいかがでしょうか？



人事消息

医師派遣 福岡赤十字病院

4月1日(火)～4月30日(水) 中島 陽平
5月1日(木)～5月15日(木) 岡部 安博
5月16日(金)～5月30日(木) 小林 毅一郎
6月2日(月)～6月13日(金) 井上 重隆
6月16日(月)～6月30日(月) 小田 康徳

医師派遣(専攻医) 北海道家庭医療学センター

4月1日(火)～9月30日(火) 中原 宏和

愛知医療センター名古屋第二病院

4月1日(火)～4月25日(金) 鈴木 裕貴
6月2日(火)～6月27日(金) 山田 千歳

臨床研修医 仙台赤十字病院

4月1日(火)～4月25日(金) 南舘 瑞基
6月2日(月)～6月27日(金) 瀬野 大輔

愛知医療センター名古屋第二病院

4月7日(月)～5月2日(金) 平竹 憲優
5月7日(水)～5月30日(金) 大橋 悠希

姫路赤十字病院

5月1日(木)～5月30日(金) 名和 俊人
6月2日(月)～6月30日(火) 中根 慎一郎

旭川赤十字病院

5月7日(水)～5月30日(金) 菊地 光太郎

深谷赤十字病院

6月2日(月)～6月27日(金) 吉田 美裕

医学生

旭川医科大学 4月 2名
5月 0名
6月 0名

編集後記

日差しが眩しい盛夏となりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年度も広報委員を務めます、臨床工学技術課の成田圭亮です。

私事ではありますが、我が家の食卓では『暑い日こそ辛い物、熱い物』を作りにしています。相撲部屋までは及びませんが、週に1度は鍋料理を作っており、部活動かのように汗をかきながら食べていました。夏にオススメの辛い食べ物や熱い食べ物がありましたら、教えていただくと幸いです。

私たち病院スタッフ一同、皆さまが安心して夏を過ごせるよう、日々の診療に真摯に取り組んでおります。今号も、取材にご協力いただいた皆さま、そしてお読みいただいた全ての皆さまに心より感謝申し上げます。厳しい暑さが続きますので、どうぞご自愛ください。

臨床工学技術課 成田圭亮

❖ 編集・発行責任者：藤城 貴教 ❖ 編集委員長：清野 浩平 ❖ 発行元：清水赤十字病院

❖ 印刷：東洋株式会社

〒089-0195 北海道上川郡清水町南2条2丁目1番地 TEL 0156-62-2513 FAX 0156-62-4460

URL <https://www.shimizu.jrc.or.jp/> MAIL contact@shimizu.jrc.or.jp